
フォトグラフ

冴木よしえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
フォトグラフ

【Nコード】
N7897A

【作者名】
冴木よしえ

【あらすじ】
一枚の写真を見つけた。自分の顔らしきものが写っている色あせた写真。祖母が久しぶりに笑った。

仏間にある戸棚の引き出しが出てこなくなった。ハサミが欲しくて急いでいるというのに。隙間から覗いてみると、引き出し上部にホツチキスが引っ掛かっていた。苛々しながらも、私は別の引き出しから30センチ定規を取り出し、中で引っかかっていたホツチキスを定規で押さえ込んだ。そっと引き出しを引くと、ようやく全開した。

使いたかったハサミを取り出すが、そのまま引き出しを閉めるのは気が引けたので整理をすることにした。棚から引き出しを外してしまい、中身を床にぶちまけた。畳に広がった文房具や便箋などに手を伸ばした時、一枚の写真が視界に入った。

写真には、私自身が写っていた。それも今の自分の姿。しかしその写真はセピア色で、古いもののようだった。背景も木製の電柱が写っていたりと、とても現代とは思えない風景なのだ。

「でもこの顔…、私だよね…」

髪形までもが同じで、どうにも奇妙である。床に散らばった文房具をそのままにして、セピア色の写真を手に母の居るリビングに向かった。母は写真を見て懐かしそうに笑い、そして写真と私を見比べた。

「あんだ、昔の私にそっくりなんだね。これほどまでに似てるとは」
母は大きな声で笑いながら、写真を片手に祖母のいる和室へと向かった。私も後を追って和室へと入る。そして、久しぶりに祖母の笑い声を聞いた。

「血が繋がってるんだねえ。親子なんだねえ」

嬉しそうにそう言う祖母を見て、つい先ほどまで苛々していたことなど忘れてしまった。たった一枚の写真で、笑うことの少なくなつた祖母が、大きな声で笑い出したのだ。

自分でも見間違っほどそっくりな、母親の若かりし頃の写真。血

は争えないとも言おうか。間違いなく母の子であることに、何故か嬉しさを覚えた。

明日は学校にこの写真を持って行って、友人達に見せよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7897a/>

フォトグラフ

2010年10月10日11時48分発行